

令和元年度 第1回土佐清水市地域公共交通協議会・ 土佐清水市有償運送運営協議会 総会 会議録

日 時：令和元年6月26日（水） 13時30分～14時30分

場 所：土佐清水市役所2階 第1会議室

出席者：別紙のとおり

事務局：企画財政課長補佐 池正澄、政策企画係長 公文麻衣、政策企画係主事補 山崎立志

会議概要（要約）

【総会の成立】

「土佐清水市地域公共交通協議会規約第12条第2項ならびに土佐清水市有償運送運営協議会設置要綱第5条第4項」の規定により、委員の2/3以上の出席が必要。委員の数は18名、その2/3は12名。本日の出席委員数は17名であり、両総会が成立していることを報告。

【承認事項】

(1) 土佐清水市地域公共交通協議会規約の改正について【承認事項】

(上戸康弘委員) 総務・企画・観光担当なので、観光も追加が必要である。

⇒(事務局) 追加するようにします。

⇒その他は意見・質問なく 『承認』

(5) 土佐清水市地域内リーダー系統確保維持計画について【承認事項】

⇒意見・質問なく 『承認』

【質疑・意見交換内容（要旨）】

(西宮委員) スクールバスの路線バスへの置き換えについて進捗状況はどうか。

⇒(事務局) 路線バスへの変更についてはまだ進んでいないが、スクールバス費用の削減という部分では、今年度より中学校便の日曜日完全運休と、旧養老小学校区の小学生を中学校の便に混乗するなどしており、昨年度と比較すると、費用は削減されている。また、継続して教育委員会と協議も重ねている。

(西宮委員) 以前報告いただいた資料で、他自治体に比べてスクールバスの費用が多額であるということだったので、利便性は維持したままで削減できる方法を進めてもらいたい。

(泥谷会長) 統合の際の経過等もあるので、慎重に進めていきたいと考えている。ただ、足摺方面（中浜・窪津）の小学生は路線バスを利用して通学しており、その辺との関係も整理しながら進めていきたい。

⇒(事務局) 朝の通学は路線バスに切り替えても、下校の時間帯が合わない部分があるので、高知西南交通さんにご協力もお願いしていきたい。

(田村委員) スクールバスについて、日曜日が運休になったことで中学生から不満がでていていると聞いている。

(程岡委員) そんな場合、路線バスには乗っていないのか。

(田村委員) 保護者の送迎だと思う。

(横山委員) 中学校は基本日曜日の部活は休みではないか。

(田村委員) 基本休み。

(泥谷会長) あったものがなくなると不満の声も出てくるとは思うが、働き方改革との兼ね合いもあり、なんとか理解してもらいたい。

(上戸委員) 秋に向けて事業が多くて実行するのは大変そうだが、その中でもICカード《ですか》の普及や乗り方教室などを行う予定となっているが、他の自治体でイベント時にバスを持ち込み《ですか》の案内と

乗り方教室を実施した結果、親子での参加が多く非常に反応が良く、当初の予定数を上回ったので、イベントと絡めた乗り方教室を行ってはどうか。ということ、「中心部へのおでかけプログラムの構築」のところで、今年度実施計画を取りまとめるとあるが、何か案があるのであれば教えてもらいたい。

⇒(事務局) 昨年度末に社会福祉協議会がパルで1週間程かけて移動手段や、どのような用事で出かけているかなどのヒアリング調査を行っており、現在詳細な分析を進めている。その中で、買い物・病院以外でどんなものがあるか。という問いもあり、買い物・病院以外での楽しみと移動を繋げるシステム作りができないか。ということは今後社会福祉協議会とともに検討していきたい。

(泥谷会長) 最近、高齢者の交通事故が毎日のようにニュースで流れるが、免許証の自主返納者の状況等を交通課長からお願いしたい。

(浦田委員) 免許返納者は四万十市・土佐清水市・黒潮町で年間200を超えている。交通事故の発生状況は高知県全域で高齢者が多く、県の平均が50%弱だが中村署管内は今日現在29件中17件が高齢者による事故であり、県の平均よりさらに割合が高くなっている。事故を起こした高齢者だけを返納対象としているのではなく、蛇行運転や極端な低速運転等を行う運転者に対して、警察からも声をかけたり、周りの方からの情報提供により交通アドバイザーの訪問等を行い、返納対象になるのか免許センターでの適性検査を促したりしている。免許返納者自体は急激に増えているわけでもないが、土佐清水市では年間100件ほどとなっている。

(田村委員) 免許返納者に対するサービスとして、財政的な問題はあると思うが、デマンドバスやタクシーを無料にすることで移動手段の確保ができるのではないかと。また、高校生にもデマンドバスを利用してもらいたいが、清水高校に通う下ノ加江方面の生徒が今年度はいなかったように思う。清水高校の生徒の確保を早くからアプローチしてはどうか。

(泥谷会長) 何でも無料にするというのは、良いようで悪い部分もあり、受益者負担は必要と考える。利便性を考えた免許返納者に対する支援は継続していきたい。清水高校については、今後も地元の高校への進学を進めていきたい。

(山本委員) 「乗務員確保の支援」について、実施主体が土佐清水市となっているが、交通事業者は入らないのか。

⇒(事務局) 運転手の募集ということだけではなく、移住促進と絡めて住宅もあり働き口もあるということで、市が広報していく取り組みであり、交通事業者が全く関わらないということではないが、作業を行うのは市ということです。

(山本委員) 乗務員が不足するのは目に見えており、いい目標だと思うが、交通事業者の意志が入っているのかということが気になった。

(鬼谷委員) 乗務員は不足しており、今年は乗務員募集について高知県の補助金も出るようになっており、高知西南交通も参加したいと考えている。市とも住宅と仕事について連携していきたい。

(泥谷会長) 人材不足・人手不足・労働力不足となっているので、上手に移住施策と絡めていきたいと考えている。

(鬼谷委員) 高齢者の免許返納については支援があるが、他の高齢者はずっと公共交通を使っているのに割引等がないという声があり、高齢化社会になっていく中でも高齢者に移動してもらうことが大切なので、今後検討していけたら。

(泥谷会長) 空白地有償運送について、当初の計画より利用者が少ないように思うがどうか。

(中嶋委員) 講習を受けた運転手が、ほぼノアズアークの職員であり、予約が入ると時間休を取って対応していたが、下川口家の協力で運転手が増え対応できるようになったので、今後は利用者も増えてきてくれるのではないかと。